

# 戰時國民幼稚園

(四) 瀾達なる身心

## 倉橋惣三

國は今、その全力を展開せしめつゝある。進んでおそるゝところなく、向つてためらうところなく、撃つてくだかざるところはな。意氣冲天はこのことである。精力横溢はこのことである。力は展開によつて更に加へられ、愈々伸長、益々加増、同じく全力といふも、今日の全力は昨日の全力でなく、明日の全力はまた今日の全力に止まらない。これ、大東亞戦下の日本である。

この雄大な戦下にあつて、國民個々の意氣の揚がるは素よりである。その足の歩みは、町の坦路に於ても、野の畦道に於ても、その強きこゝ行軍の如く強い。その手の働きは、ハンマーを持つても、鋏を持つても、櫓を持つても、銃を執り砲を曳くが如く強い。是非そうでなければならぬのである。殊に、業に向つて努力平生に倍し、事に當つて勇氣常時をしのぐのが、今日の日本人の生活である。

物資の不足、業務の繁劇、休養の減少、そんなこゝで少しも、消極にせられず、況んや恭微せられず、却て益々胸を張り、肩を聳かし、頭を擧げ、頬を輝かし、氣によつて氣を養ひ、力によつて力を貯へ、堂々として長期の大計に疲れを知らぬ活歩を續けてゆかうさしてゐるのが、今日の日本の青年であり、少年であり、幼児でもある。是非そうあらせなければならぬのである。長期益々重きを荷ふて賞はなければならぬ國の後繼者に、今の生活で、その勢力を出しつくさせたりしてはならぬ。況んや、徒に小心に勞せしめたりしてはならぬ。

國民學校令はその體鍊科に就て、「瀾達剛健ナル心身を育成シ、獻身奉公ノ實踐力ヲ培フヲ以テ要旨トス」を示してゐる。しかも、これはひゞり體鍊科の要旨たるべきに止まらず、又、必ずしも、國民學校の目的たるに限らない。今日の此の雄大な大東亞戦下に於て、自らそうであらねばならぬ。また、是非そうあらしめなければならぬ。教育の一大要旨である。瀾達剛健の心身。何んたる勇ましい教育目的であらう。若し剛健さいふのが幼児としては餘りにも勇まし過ぎるならぬ。瀾達だけでもいい。何んたる好ましい教育目的であらう。曰く明朗、曰く快活、それらに、もう一つ彈力をつけ、發展性を添へたものが瀾達である。男の子も、女の子も、大東亞戦下の日本幼兒悉く瀾達たれ。そのために、幼稚園の先生が先づ瀾達でなければならぬこゝは言ふまでもない。